

取組状況 (1)

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

危機管理型水位計の現場実証実験開始【国土交通省】

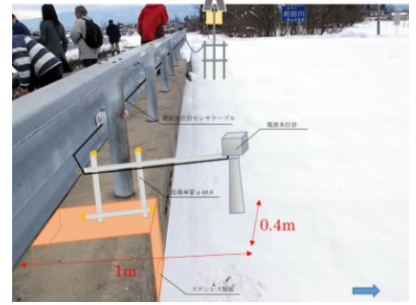
～危機管理型水位計(寒冷地対応)を山形から全国へ～

中小河川においては、予算的な制約等により洪水時の避難行動の目安となる水位が把握できないため、逃げ遅れによる人的被害が発生しています。

国土交通省では、洪水時のみの水位観測に特化した低コスト水位計(危機管理型水位計)の開発を昨年より進めています。

今般、さらに導入を促進するため寒冷地対応の危機管理型水位計の現場実証実験を高畠町を流れる最上川支川和田川をフィールドとして行うことになりました。

今後、現場実証実験を踏まえて全国展開が期待されます。



電波式水位計設置イメージ

取組状況 (2)

広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等

想定最大規模の洪水ハザードマップを住民配布【白鷹町】

～大規模水害から命を守るために～

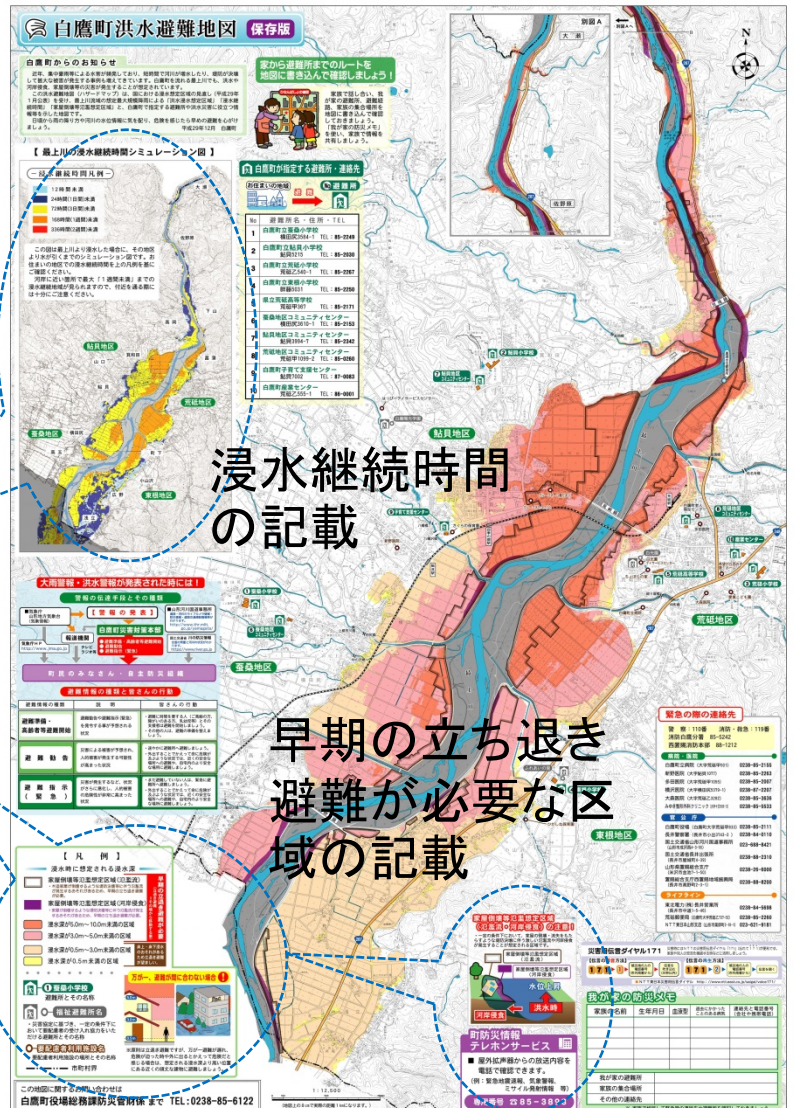
平成27年の水防法改正により『想定し得る最大規模の降雨』に対応した避難方法等を住民等に適切に周知するハザードマップを作成することになりました。

白鷹町にて洪水ハザードマップを作成配布したことから、作成例として紹介します。

ハザードマップのポイント

- ①住民目線で作成。
- ②想定最大規模の水害に対する避難計画をハザードマップに反映する。
- ③住民が避難計画を検討できるように避難場所・避難経路等が判別できる縮尺とする。
- ④浸水想定区域・浸水深・浸水継続時間・早期の立ち退き避難が必要な区域を記載。
- ⑤避難勧告等の情報伝達方法や自らの判断による避難行動を促す記載。

【参考】
国土交通省ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>



洪水時の避難指標を独自に設定【大江町】

～地域住民の主体的な避難を促す～

平成25,26年浸水被害を受けた大江町百目木地区において、洪水時に避難の指標となる危険度に応じた基準水位を町・国連携のもと、町が地域合意を得て設定しました。

また、平成29年1月の想定最大規模降雨の最上川浸水想定区域見直しに伴い、百目木地区の「洪水ハザードマップ」を見直すとともに、浸水深さの変更に伴う、地域内の「浸水深表示板の見直し」を実施。

これらの取組により行政の円滑な避難誘導だけでなく、住民の主体的な避難行動を期待するものです。



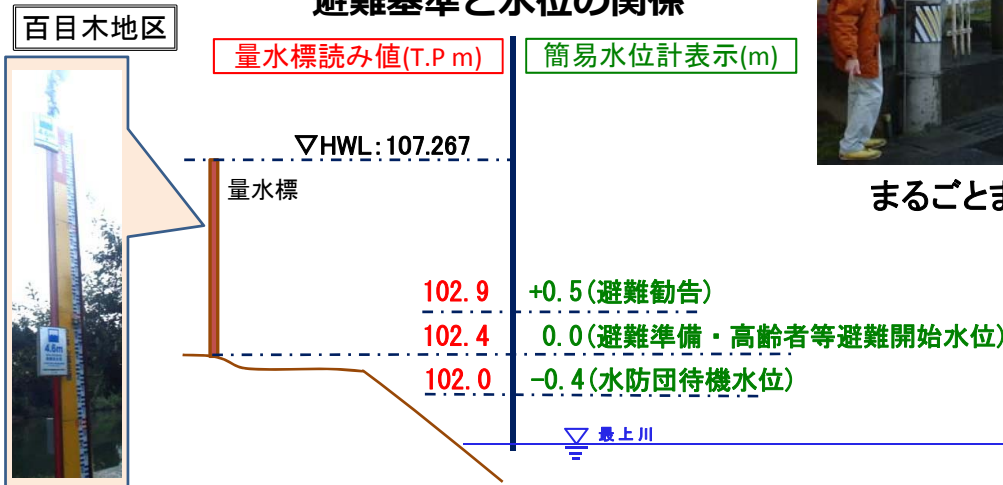


※想定される浸水深を表示

想定浸水深
Flood Water Depth (Projected)
この場所は最上川が氾濫すると3.0m浸水する可能性があります
大江町 / Oe Town 0312

まるごとまちごとハザードマップの見直し

避難基準と水位の関係



確実な避難行動に向けて



編集後記

昨年も秋田県雄物川をはじめ、全国各地において痛ましい豪雨災害が発生しました。山形県内では幸い大きな水害はありませんでしたが、いつ襲われてもおかしくない状況です。

本年も水防災意識を高めていただきたく啓発活動をはじめとする減災対策を関係機関と一丸となって、着実に進めて参りたいと思います。